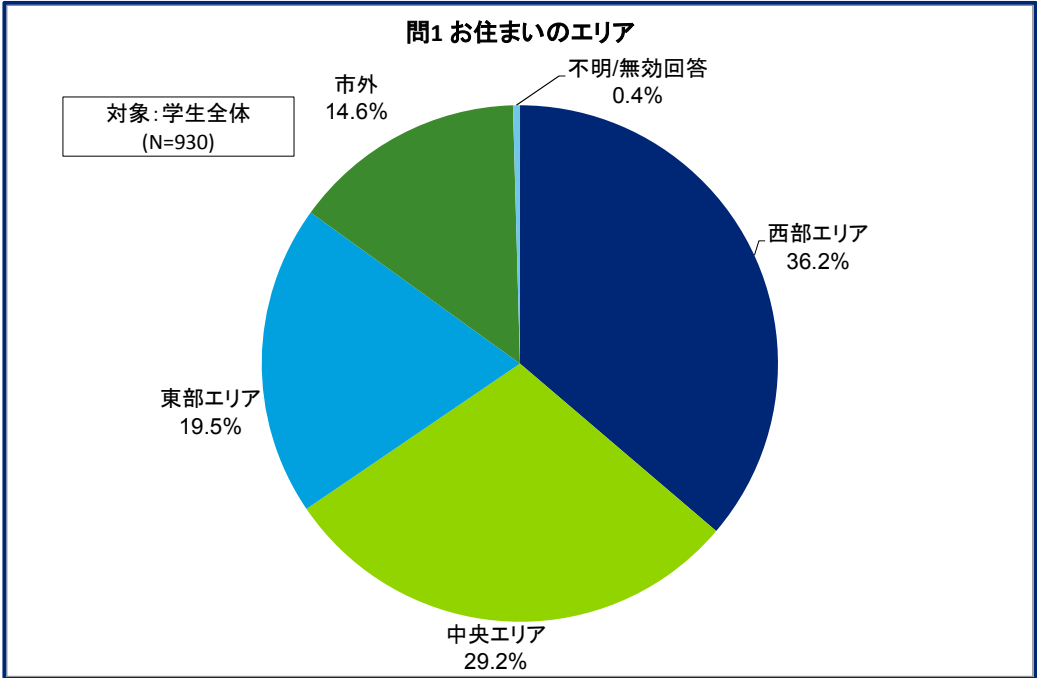


ア調査結果

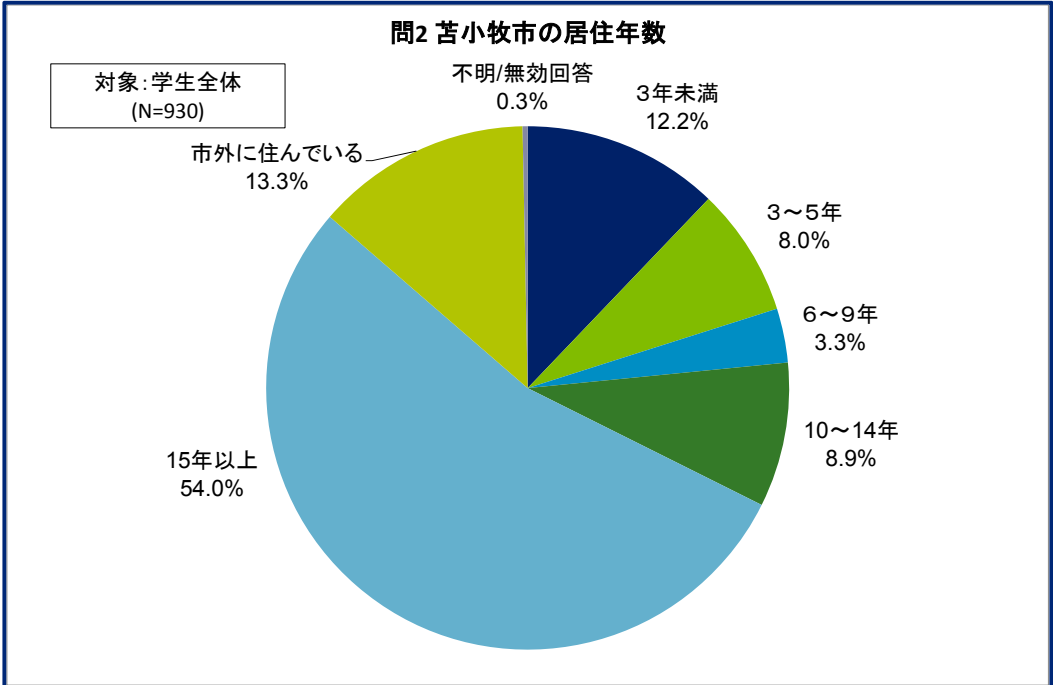
(7) 居住区 (問 1)

- 回答者の居住区は多い順に、「西部エリア」(36.2%)、「中央エリア」(29.2%)、「東部エリア」(19.5%)となっている。



(1) 居住年数 (問 2)

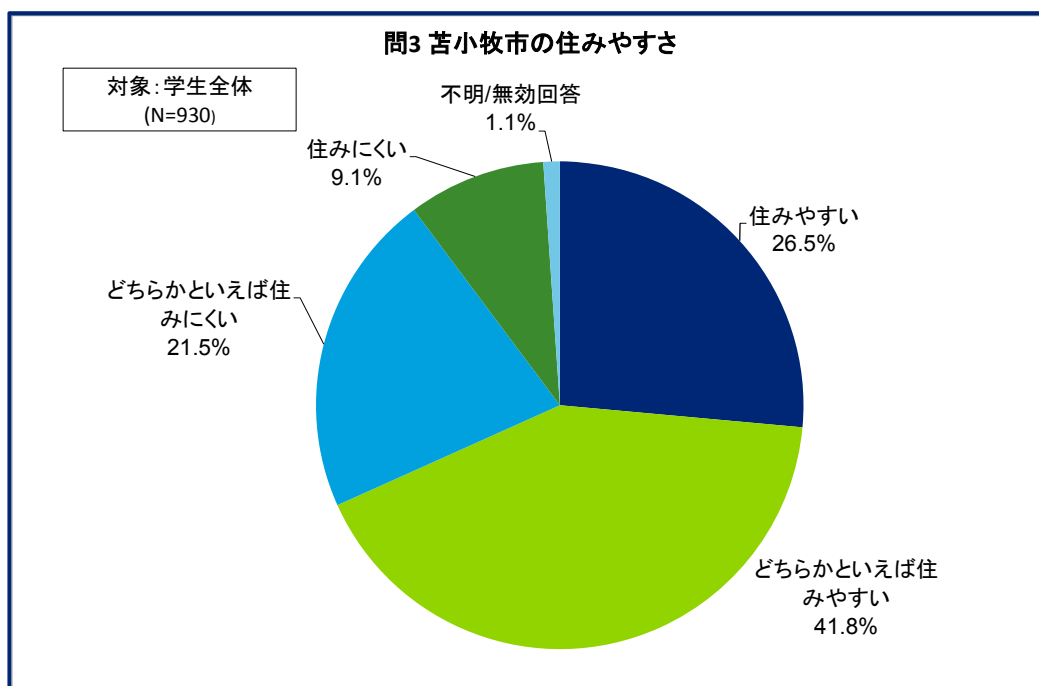
- 苫小牧市での居住年数では、「15年以上」が54.0%と半数以上を占める。次いで多いのは「3年未満」(12.2%)である。



(ウ) 苫小牧市の住みやすさ及びその理由

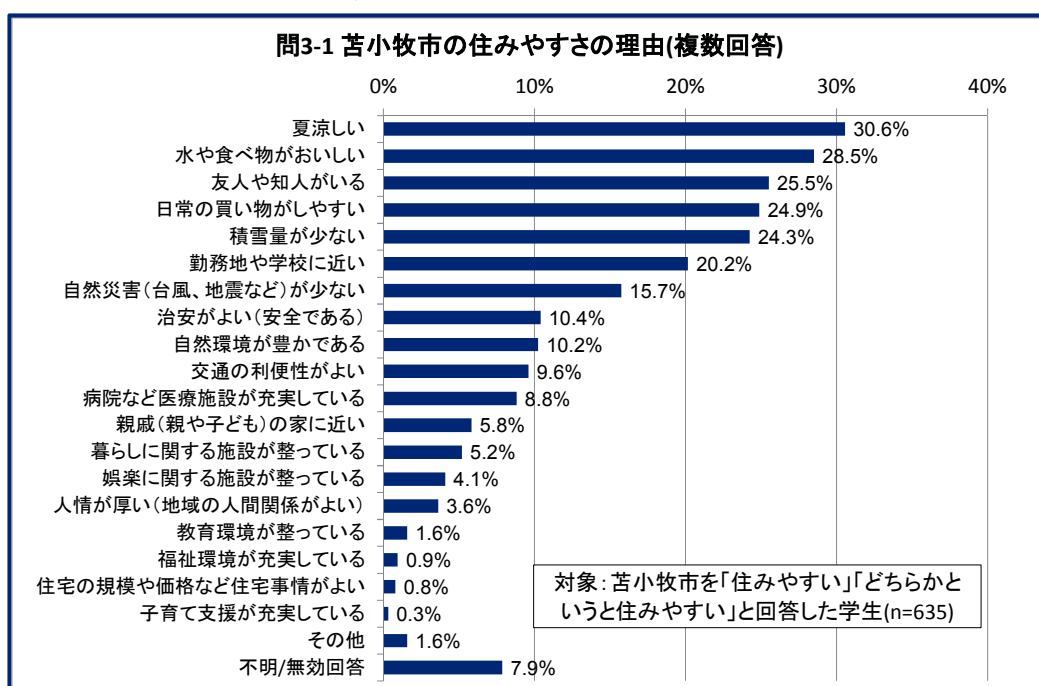
① 苫小牧市の住みやすさ (問3)

- ・ 苫小牧市を「住みやすい」と回答した者は 26.5%であり、「どちらかといえば住みやすい」と回答した者 41.8%を加えると、全体の約 7 割の住民が住みやすさに対しポジティブな評価をしている。
- ・ 一方、「住みにくい」と回答した者は 9.1%、「どちらかというと住みにくい」と回答した者は 21.5%である。



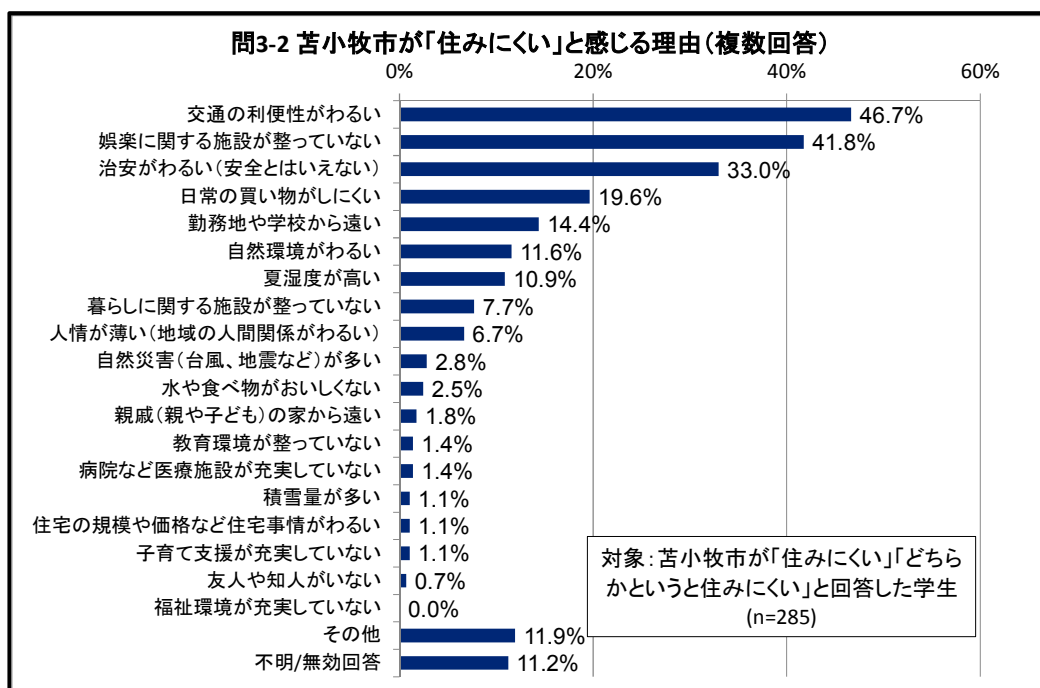
② 住みやすさの理由 (問3-1)

- ・ 苫小牧市が「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した者を対象に住みやすい理由をきいたところ、もっとも多かったのは「夏涼しい」(30.6%)であった。
- ・ また「水や食べ物がおいしい」(28.5%)や「積雪量が少ない」(24.3%)など、気候や風土に関する項目が上位にあげられている。



③ 住みにくい理由（問3-2）

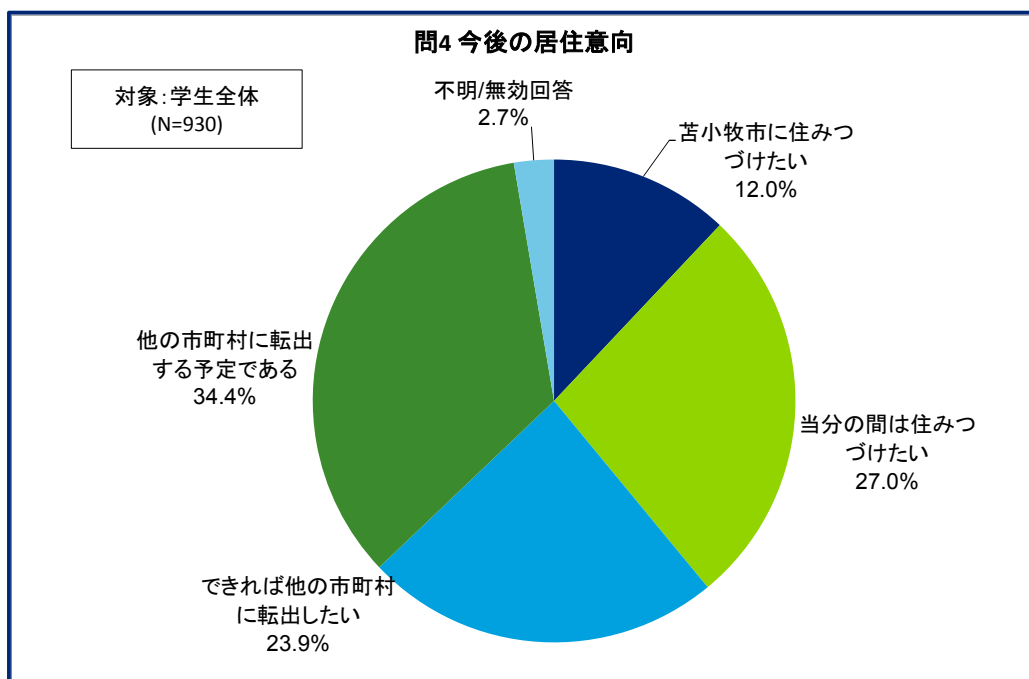
- 一方苫小牧市に対し「住みにくい」もしくは「どちらかというに住みにくい」と回答した者に対してその理由をきくと、「交通の利便性がわるい」（46.7%）との回答が最も多かった
- また「娯楽に関する施設が整っていない」（41.8%）や「日常の買い物がしにくい」（19.6%）など、生活の不便さに関する項目が上位を占める。



(I) 苫小牧市への定住意向、転出希望先及び転出する理由（問4）

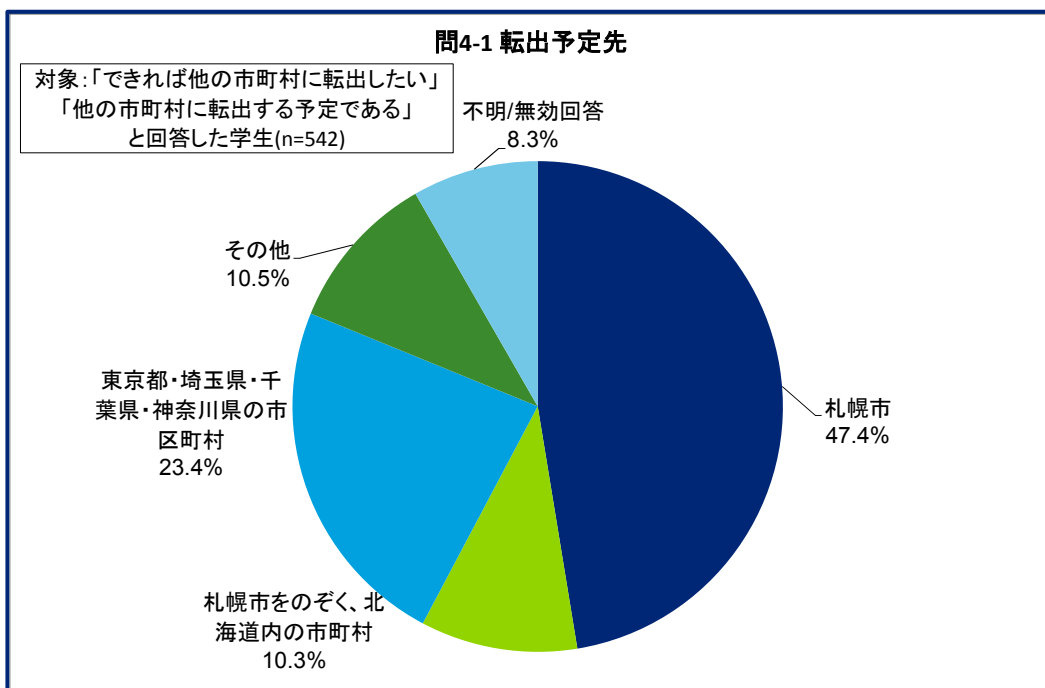
① 苫小牧市への定住意向

- 今後も「苫小牧市に住みつづけたい」と回答した者は 12.0%、「当分の間は住みつづけたい」と回答した者は 27.0%であり、居住意向が高いのは全体の 4 割弱となっている。
- 最も多い回答は「他の市区町村に転出する予定である」（34.4%）であり、相対的に転出への意向が高い傾向にある。



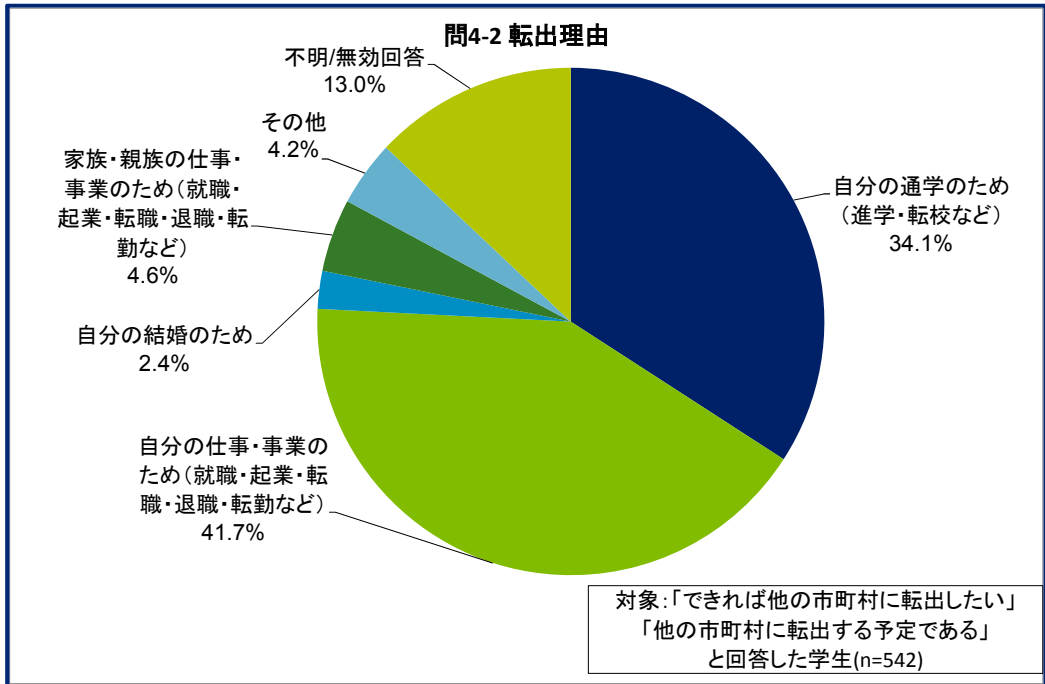
② 転出予定先(問 4-1)

- この「できれば他の市町村に転出したい」もしくは「他の市町村に転出する予定である」と回答した者に対しその予定先をきいたところ、最も多かったのは「札幌市」(47.4%)で、全体の約半分を占めた。
- 次いで「東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県市区町村」が23.4%となっており、首都圏への転出意向もみられる。



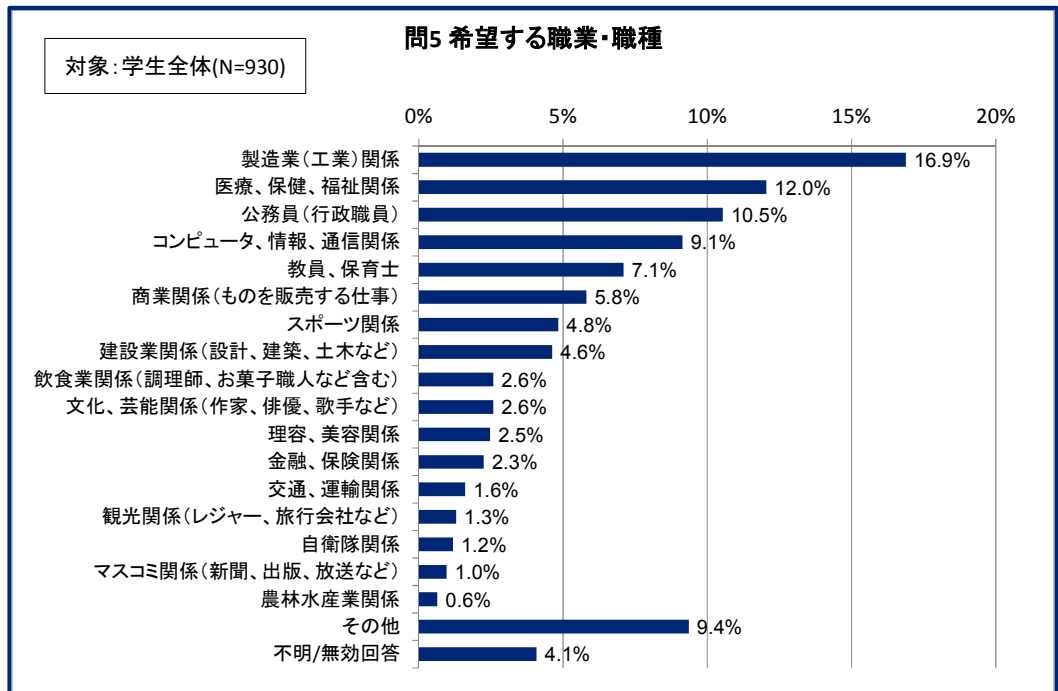
③ 転出の理由 (問 4-2)

- ・ 転出する理由としては、「自分の仕事・事業のため」が41.7%でもっとも多く、次いで「自分の通学のため」が34.1%となっている。学生が対象であり、自身の将来に関する理由が多い。



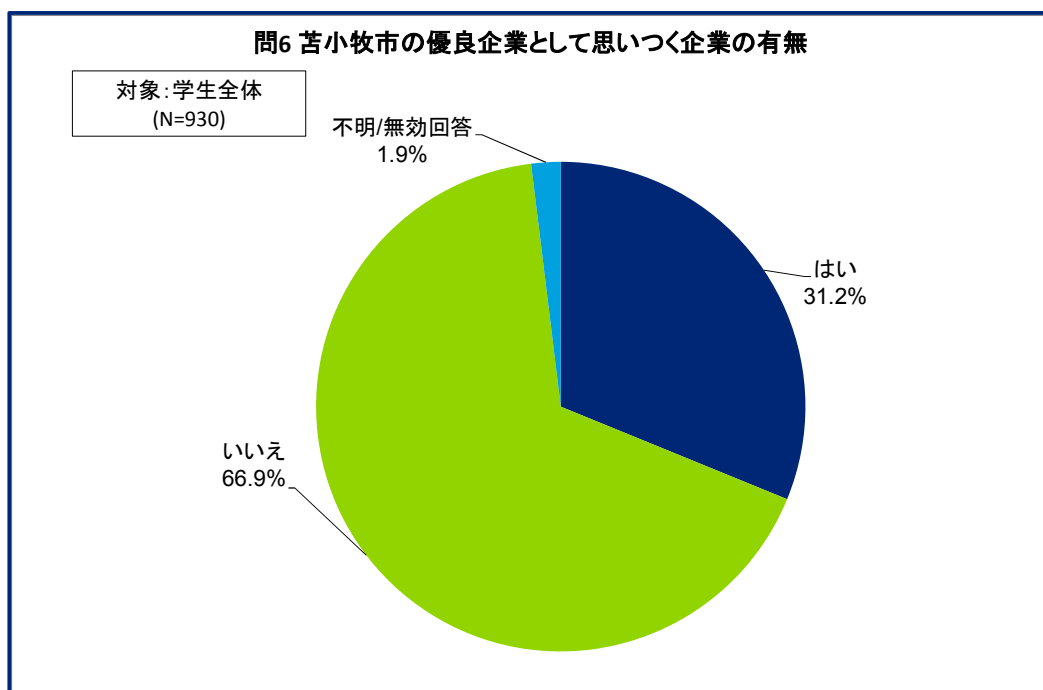
(オ) 希望する職業・職種 (問 5)

- ・ 希望する職業・職種を聞いたところ、「製造業 (工業) 関係」が16.9%で最も多かった。
- ・ 一方全体の10%を超えた項目は「製造業 (工業) 関係」のほかには「医療、保健、福祉関係」(12.0%)と「公務員 (行政職員)」(10.5%)のみであり、一極的な集中傾向はみられない。

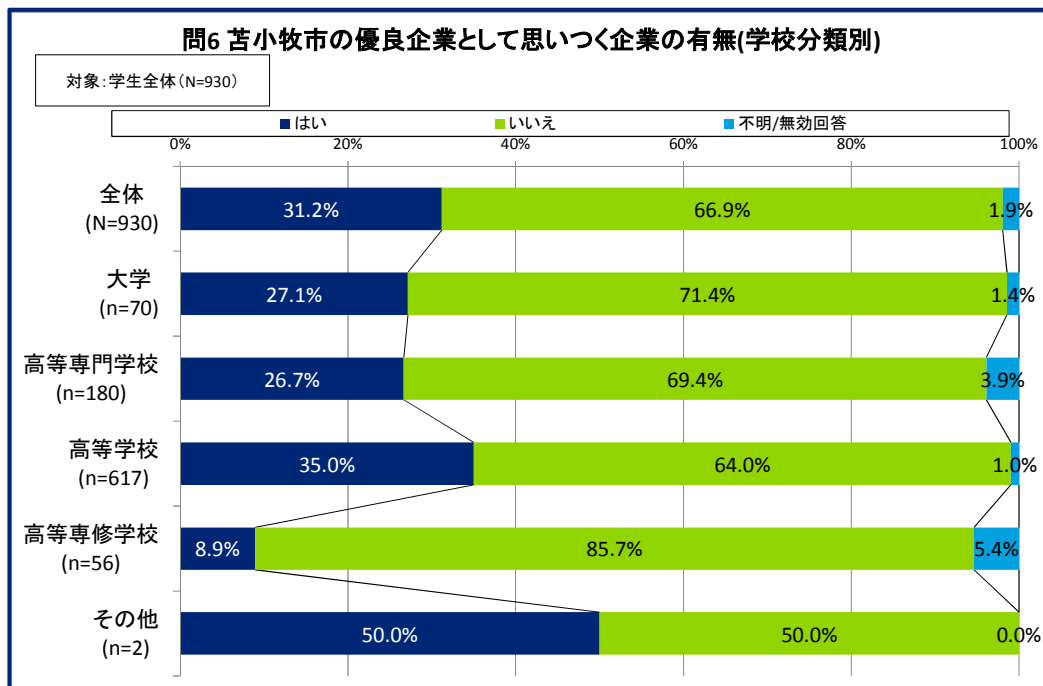


(カ) 苫小牧市の優良企業として思いつく企業はあるか（問6）

- ・ 苫小牧市の優良企業として思いつく企業があるかを聞いたところ、「はい」と回答したのは全体の31.2%であった。



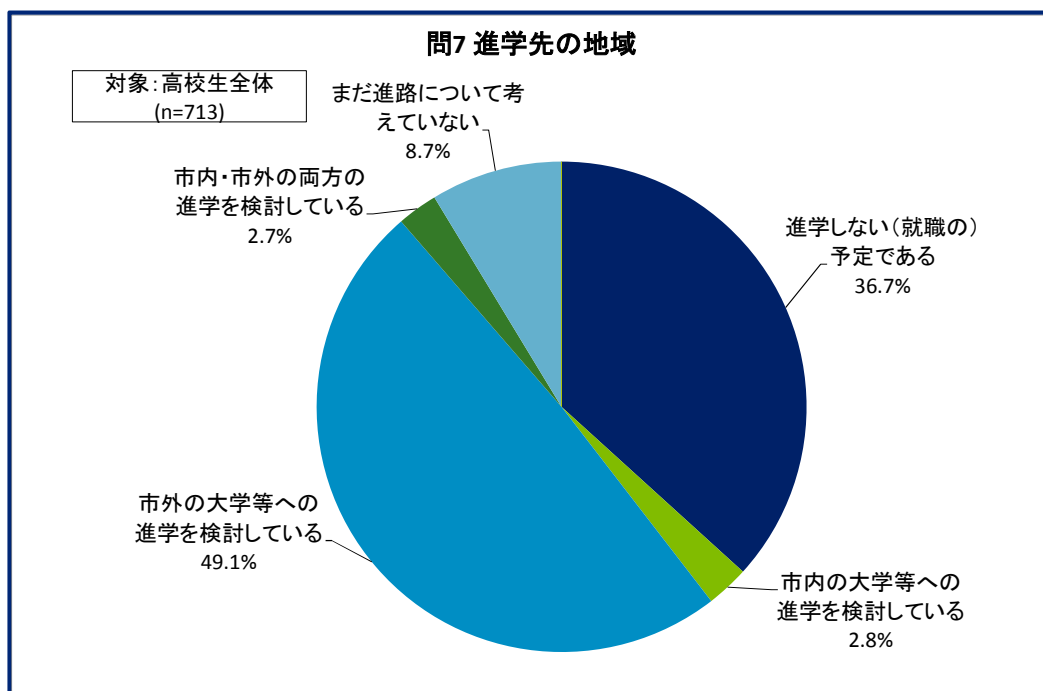
- ・ また苫小牧市の優良企業として思いつく企業があるかを学校分類別に区分したところ、大学や高等専門学校であっても、「はい」と回答したのは3割に満たなかった。



(※) 高校生の進学

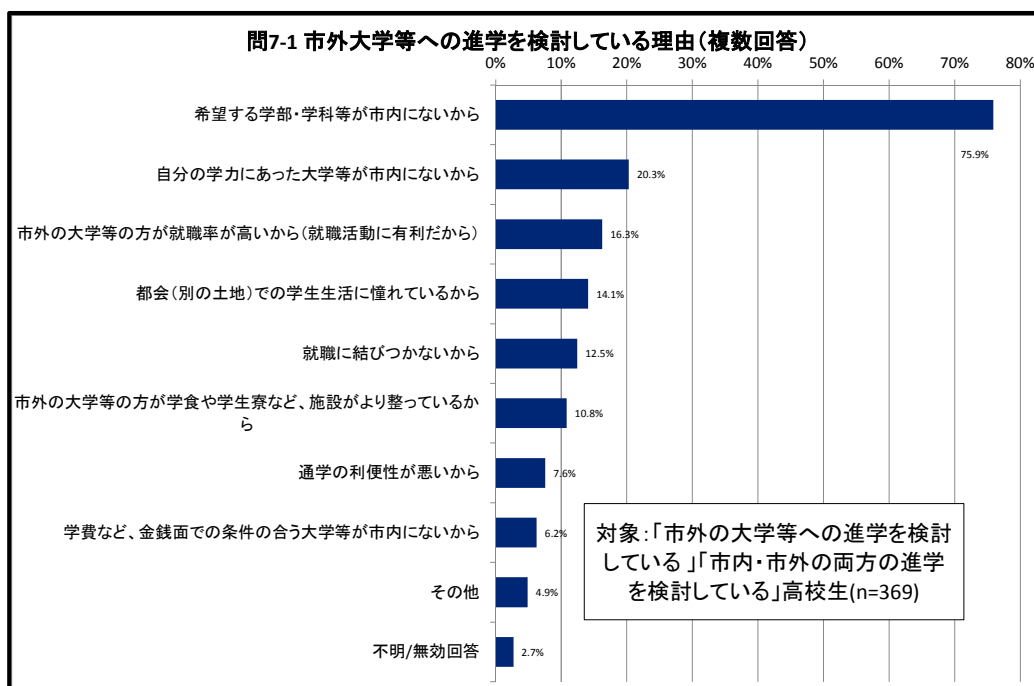
① 進学先の地域 (問 7)

- ・ 高校生に対し、進学先の地域をたずねたところ、「市外の大学等への進学を検討している」(49.1%)が全体の約半数を占めた。一方で「市内の大学等への進学を検討している」は2.8%であった。



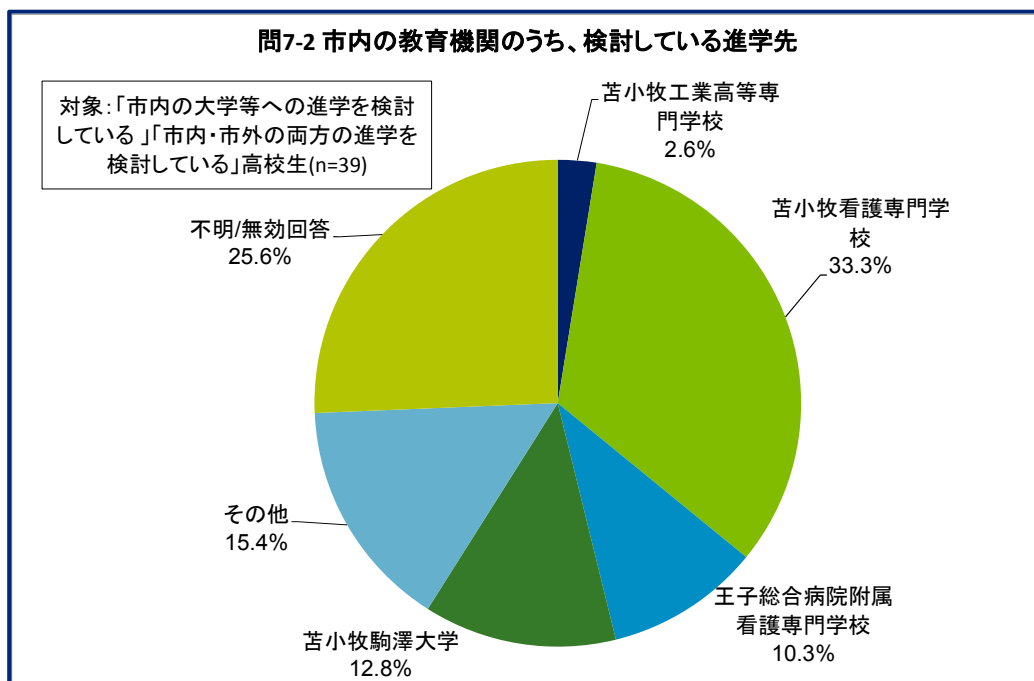
② 市外への進学を検討理由(問 7-1)

- また市外への進学を検討している高校生に対しその理由をたずねたところ、「希望する学部・学科等が市内にないから」(75.9%)が全体の約 4 分の 3 を占めた。



③ 検討している市内の進学先(問 7-1)

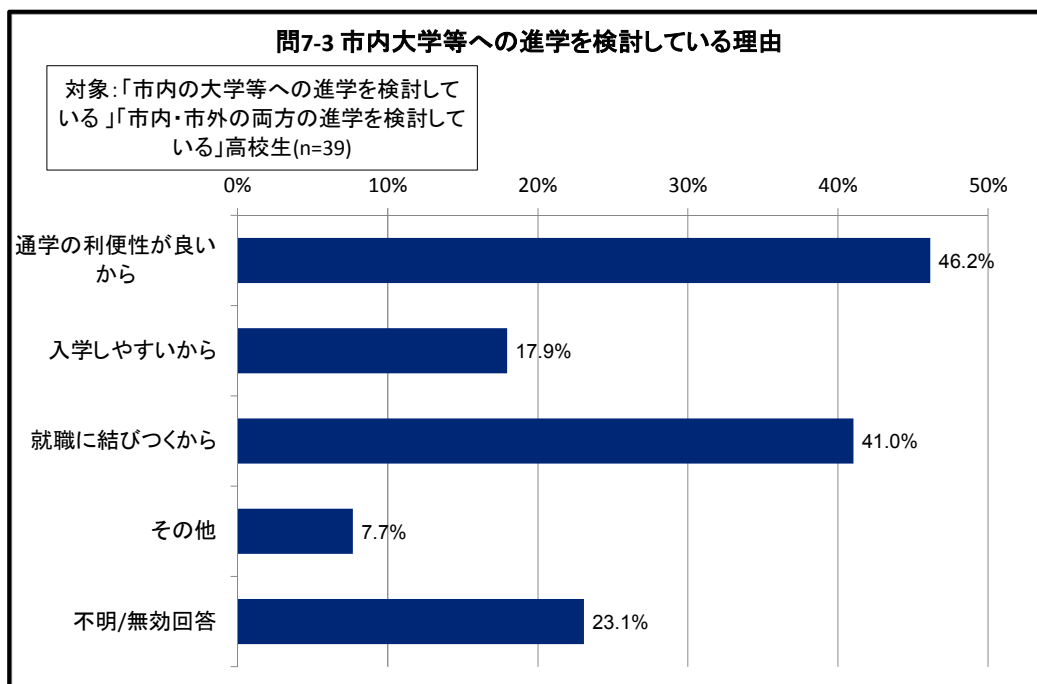
- 一方で市内での進学を検討している高校生に対し、検討している進学先をたずねたところ、「苫小牧看護専門学校」が全体の 33.3%であった。一方で「不明/無効回答」も 25.6%あった。





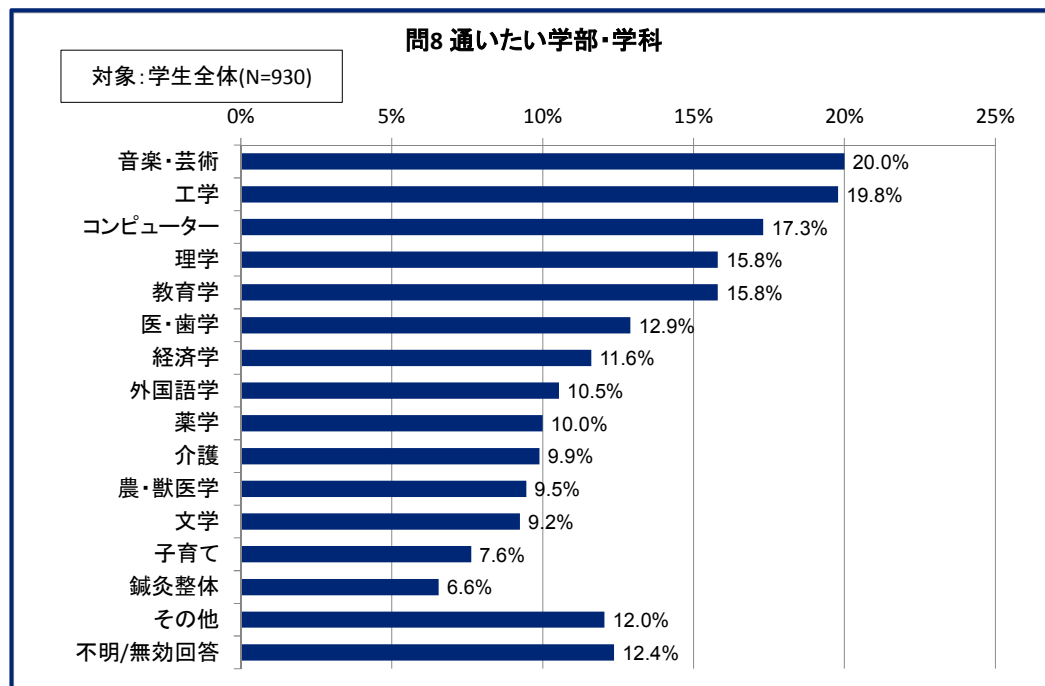
④ 市内での進学を検討理由 (問 7-3)

- さらに市内での進学を検討している高校生に対しその理由をたずねたところ、「通学の利便性が良いから」が 46.2%で最も多く、次いで多かったのは「就職に結びつくから」(41.0%)であった。



(ク) 通いたい学部・学科 (問 8)

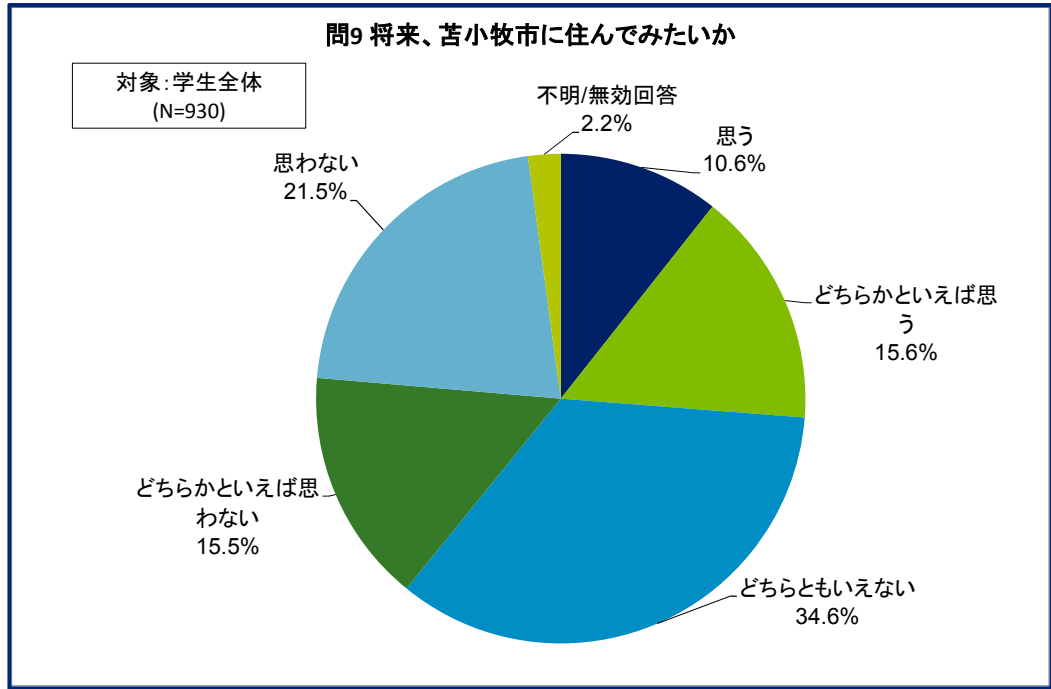
- 通いたい学部・学科は全体的に分散傾向にあり、最も高かったのは「音楽・芸術」で 20.0%であった。
- 一方「不明/無効回答」も 12.4%であり、学びたい分野が決まっていないと見られる学生も見受けられる。



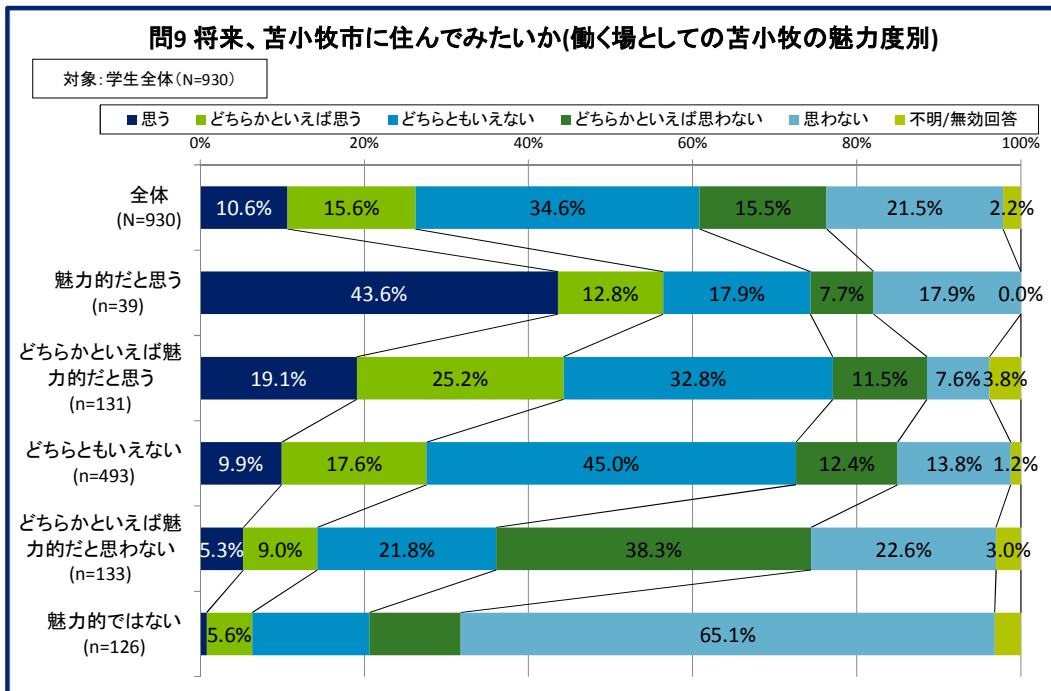
(ケ) 苫小牧市への将来の居留意向

① 将来の苫小牧市への居留意向(問9)

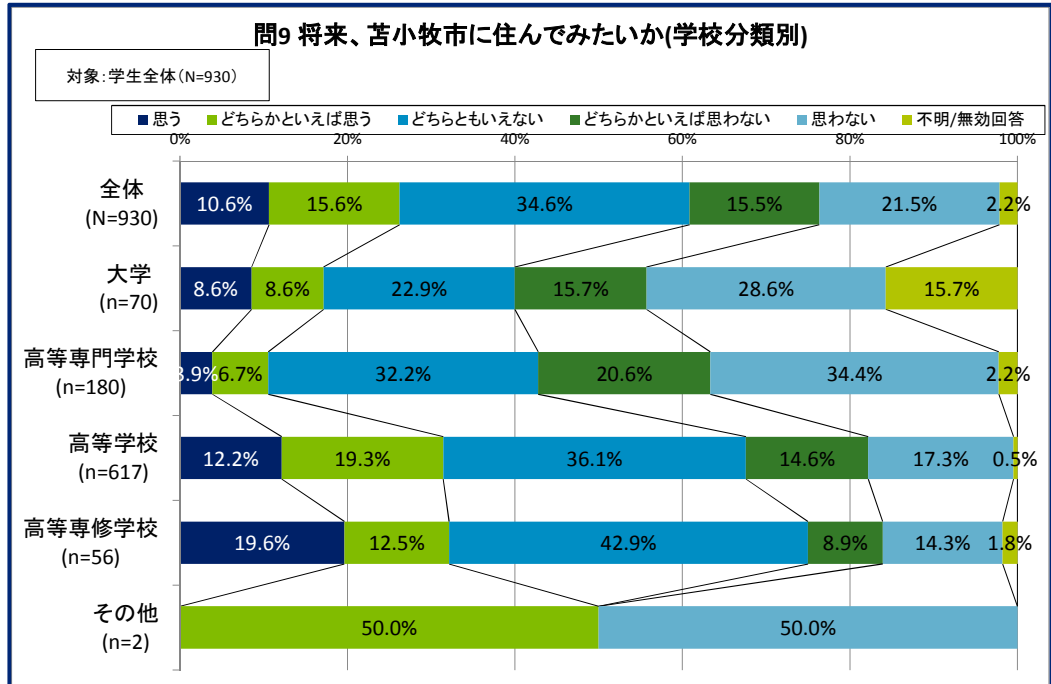
- ・ 将来、苫小牧市に住んでみたいかを尋ねたところ、最も多かったのは「どちらともいえない」(34.6%)であった。
- ・ 住んでみたいと「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると 26.2%である一方、住んでみたいと「どちらかといえば思わない」と「思わない」の合計は 37.0%であり、居留意向はやや低い傾向にある。



- ・ また将来の苫小牧市への居留意向を、働く場としての苫小牧市の魅力度別(後段の間12参照)別に分類したところ、魅力的だと回答する学生ほど、将来苫小牧市に住みたいと考えている傾向がみとれた。

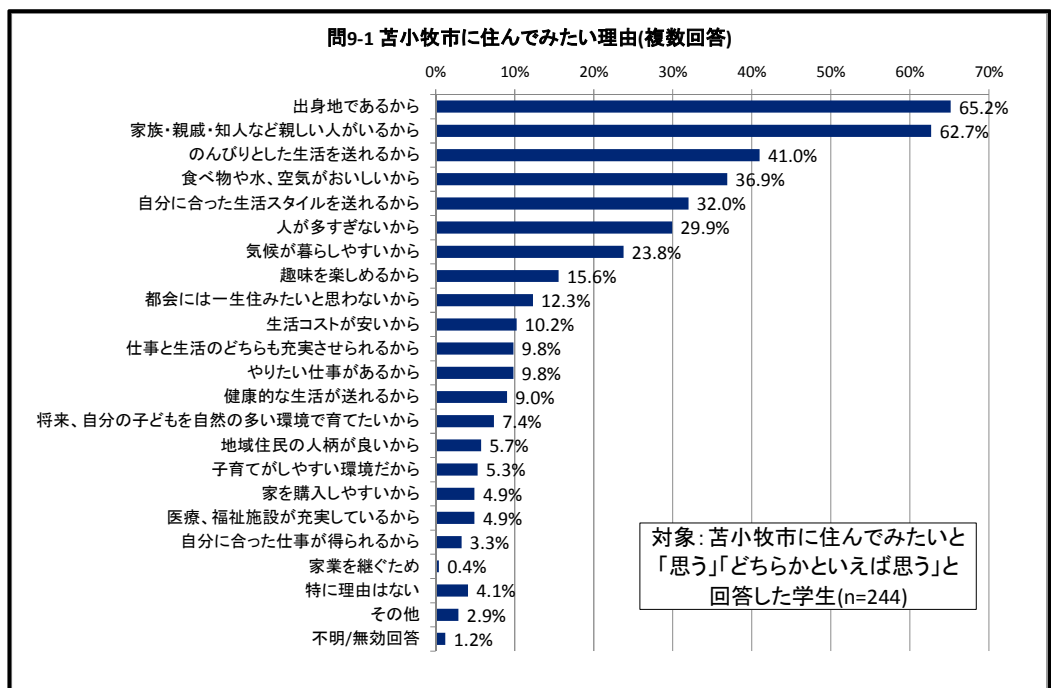


- さらに将来の苫小牧市への居留意向を学校分類別に分類したところ、「大学」および「高等専門学校」では住んでみたい意向が低く、「高等学校」および「高等専修学校」では高い傾向にある。



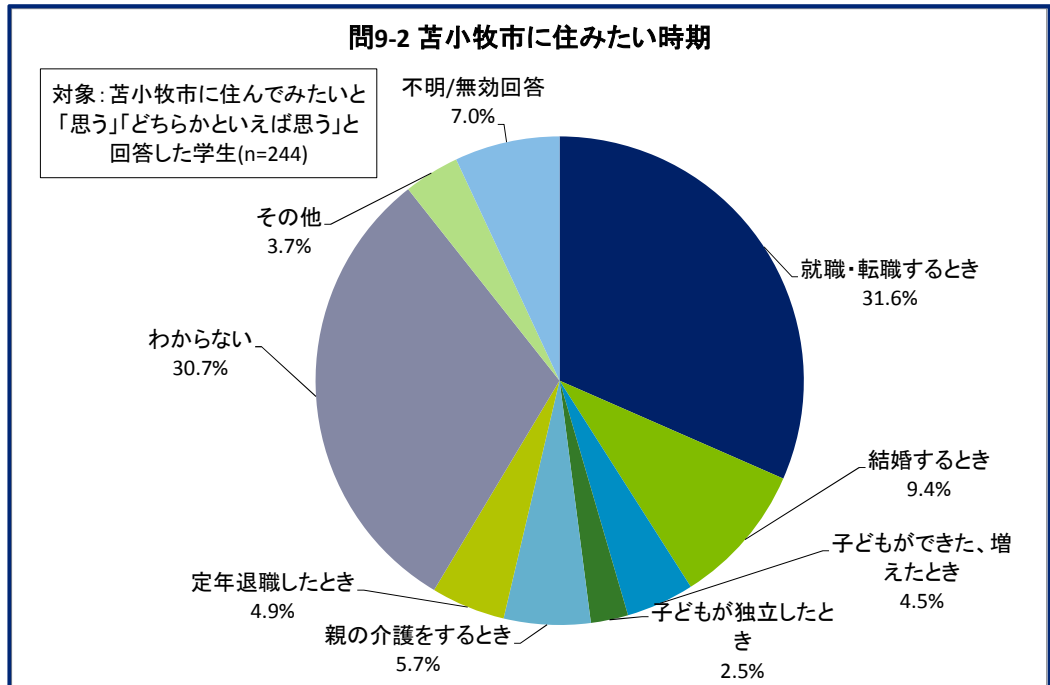
② 将来、苫小牧市に住んでみたい理由(問 9-1)

- 将来苫小牧市に住んでみたいと「思う」もしくは「どちらかといえば思う」と回答した学生に対し、その理由をきくと、「出身地であるから」(65.2%)と「家族・親戚・知人など親しい人がいるから」(62.7%)が上位2項目であり、地の縁、人の縁を重視していることがみてとれる。



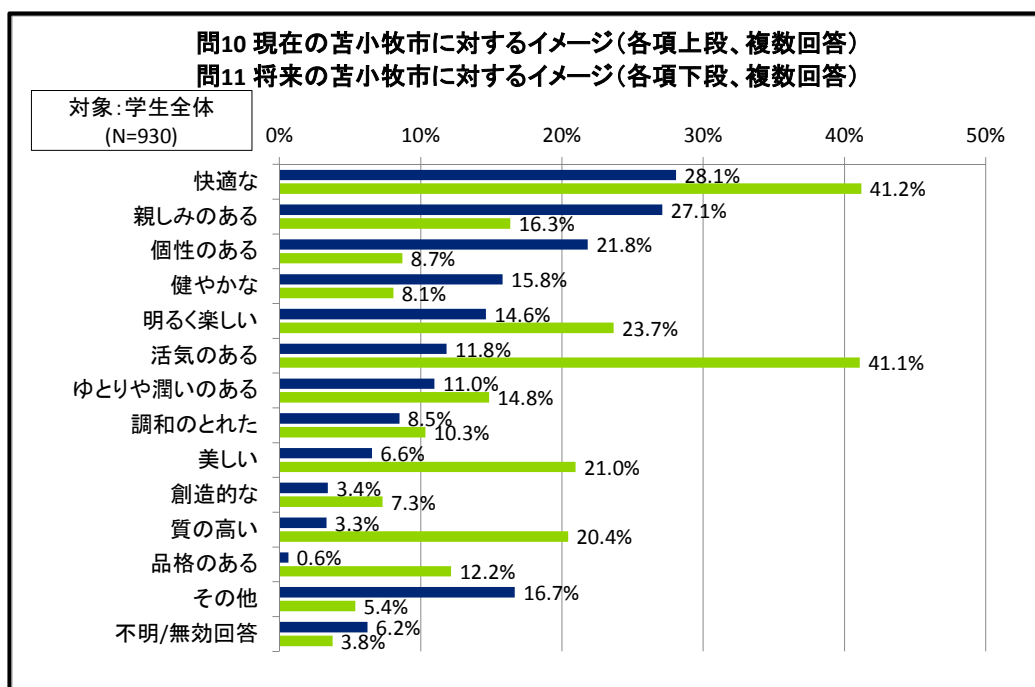
③ 将来、苫小牧市に住みたい時期(問9-2)

- ・ 同じく将来苫小牧市に住んでみたいと「思う」もしくは「どちらかといえば思う」と回答した学生に対し、その時期をきくと、「就職・転職するとき」が31.6%で最も多かった。
- ・ 一方で「わからない」も30.7%あり、漠然と苫小牧市に住みたいと考えている学生も多いと考えられる。



(コ) 苫小牧市のイメージ(問10&問11)

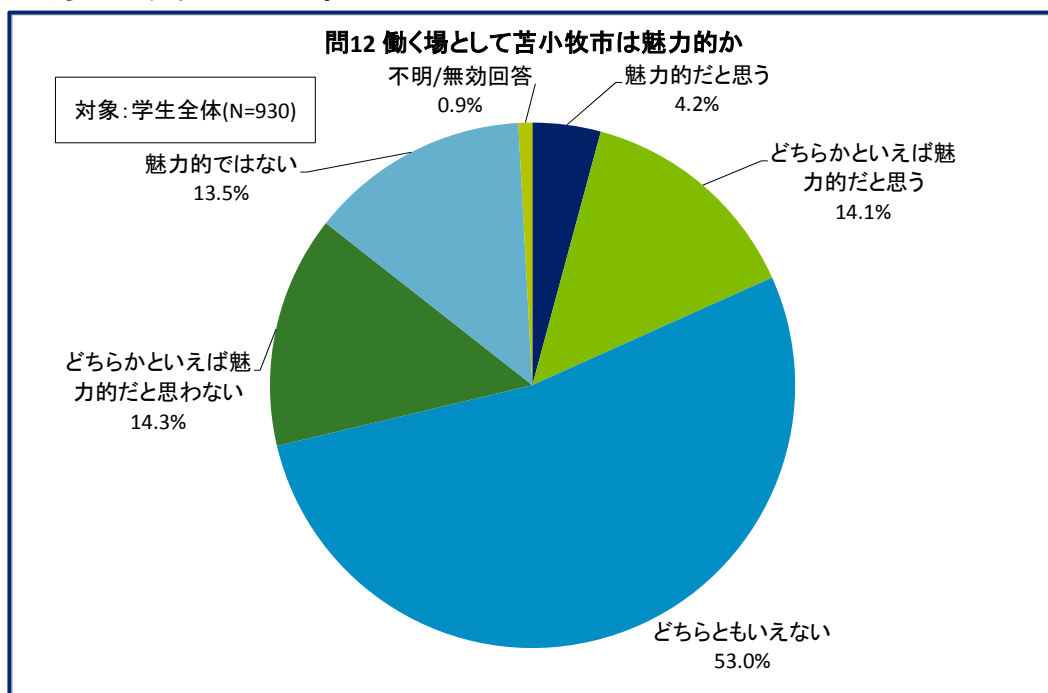
- ・ 現在の苫小牧市のイメージとしては、「快適な」(28.1%)、「親しみのある」(27.1%)、「個性のある」(21.8%)が上位3項目である。
- ・ 一方将来の苫小牧市のイメージとしては、「快適な」(41.2%)、「活気のある」(41.1%)、「明るく楽しい」(23.7%)が上位3項目である。全体的に現在抱くイメージとは異なる項目が上位に来る傾向にある。
- ・ 現在と将来とを比較すると、将来のイメージの方が良い傾向が強く、特に「快適な」、「活気のある」、「美しい」では将来のイメージが10ポイント以上高い。



(サ) 働く場としての苦小牧市の魅力度とその理由

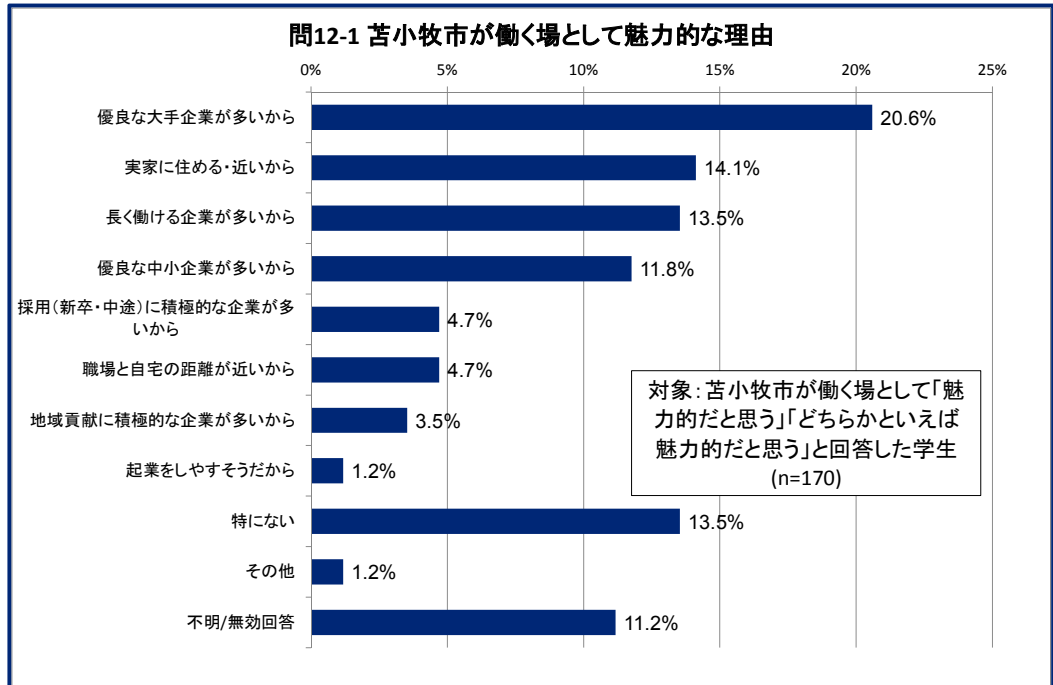
① 働く場としての苦小牧市の魅力度(問 12)

- ・ 働く場として苦小牧市を魅力的だと回答しているのは、「魅力的だと思う」(4.2%)と「どちらかといえば魅力的だと思う」(14.1%)を合わせて、18.3%である。
- ・ 一方、魅力的ではないとの回答は、「どちらかといえば魅力的だと思わない」と「魅力的ではない」の回答を合わせて27.8%となっている。
- ・ 「どちらともいえない」が過半数の53.0%であり、まだ明確なイメージがない学生も多いと見受けられる。



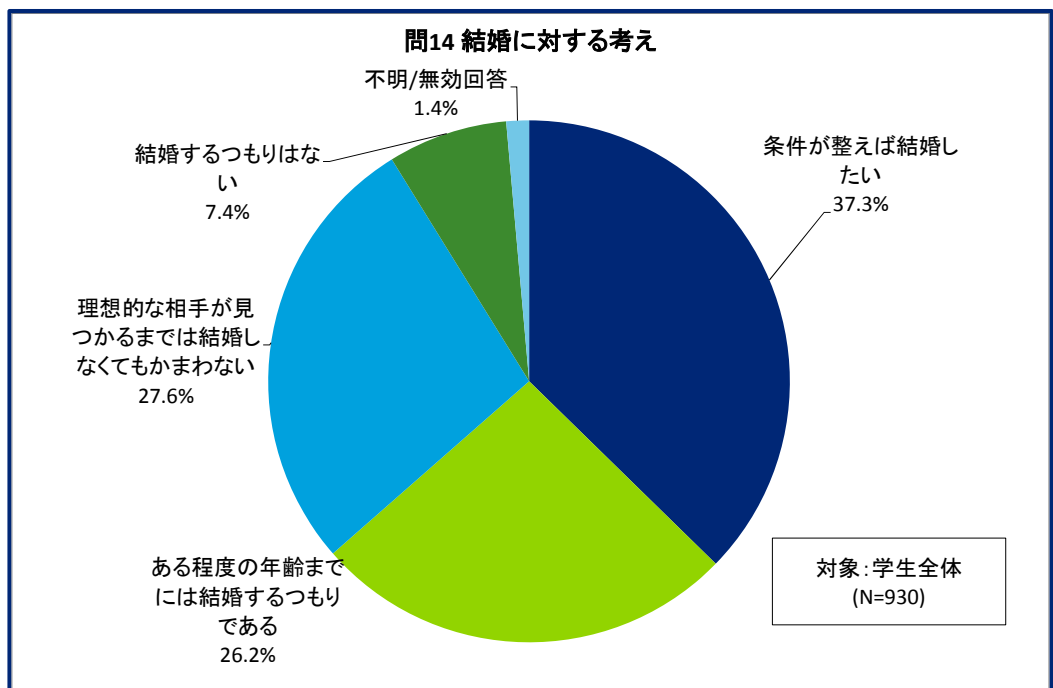
② 働く場としての苫小牧市の魅力の理由(問 12-1)

- ・ 苫小牧市を働く場として魅力的だと感じる理由をきくと、「優良な大手企業が多いから」(20.6%)、「実家に住める・近いから」(14.1%)、「長く働ける企業が多いから」(13.5%)が上位を占める。
- ・ 一方で、「特にない」との回答も13.5%あった。



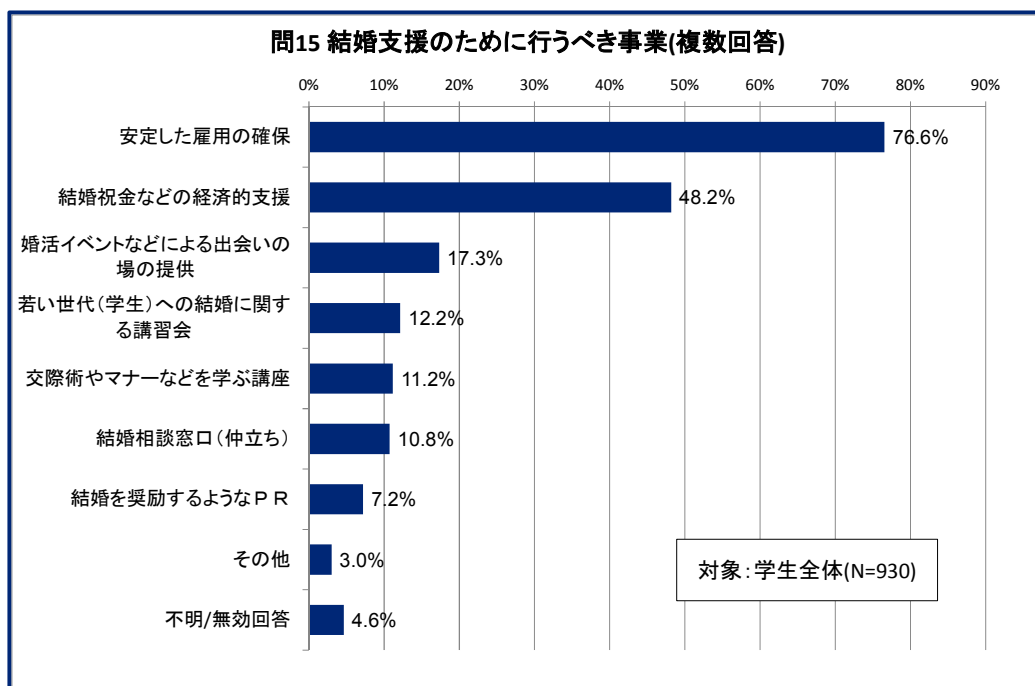
(シ) 結婚に対する意向(問 14)

- ・ 結婚に対する考えをきいたところ、「条件が整えば結婚したい」が37.3%、「ある程度の年齢までには結婚するつもりである」が26.2%であった



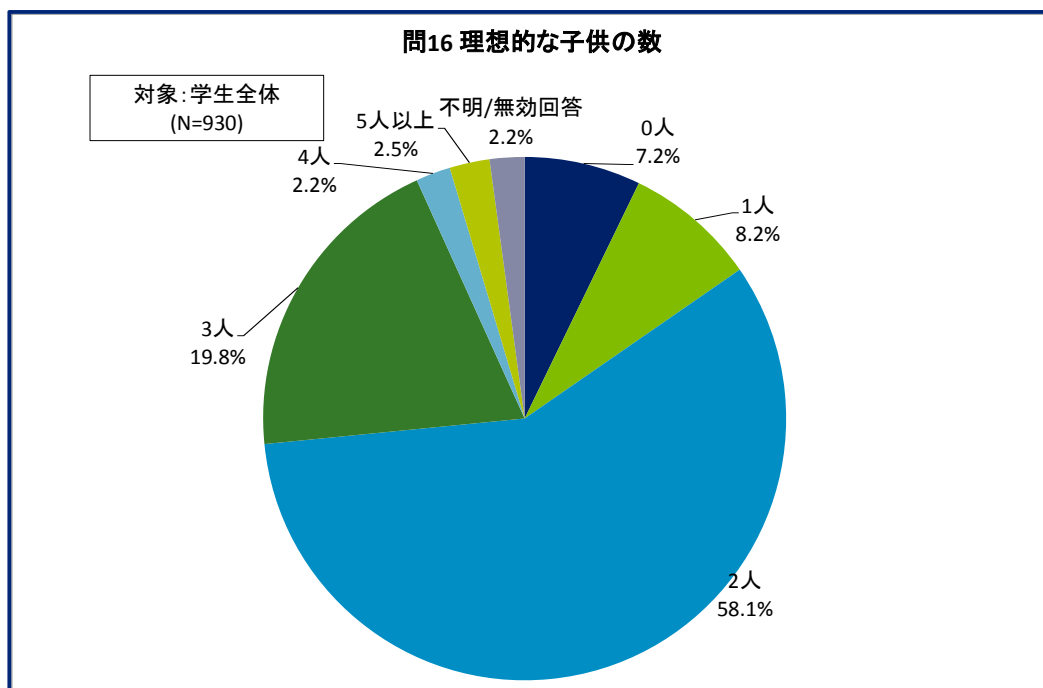
(ス) 結婚支援のために行政が取り組むべき事業(問 15)

- 結婚支援のために行政が取り組むべき事業としては、「安定した雇用の確保」(76.6%)との回答がもっとも多かった。次いで多かったのは「結婚祝金などの経済的支援」(48.2%)であり、それ以外の項目は20%未満にとどまっている。



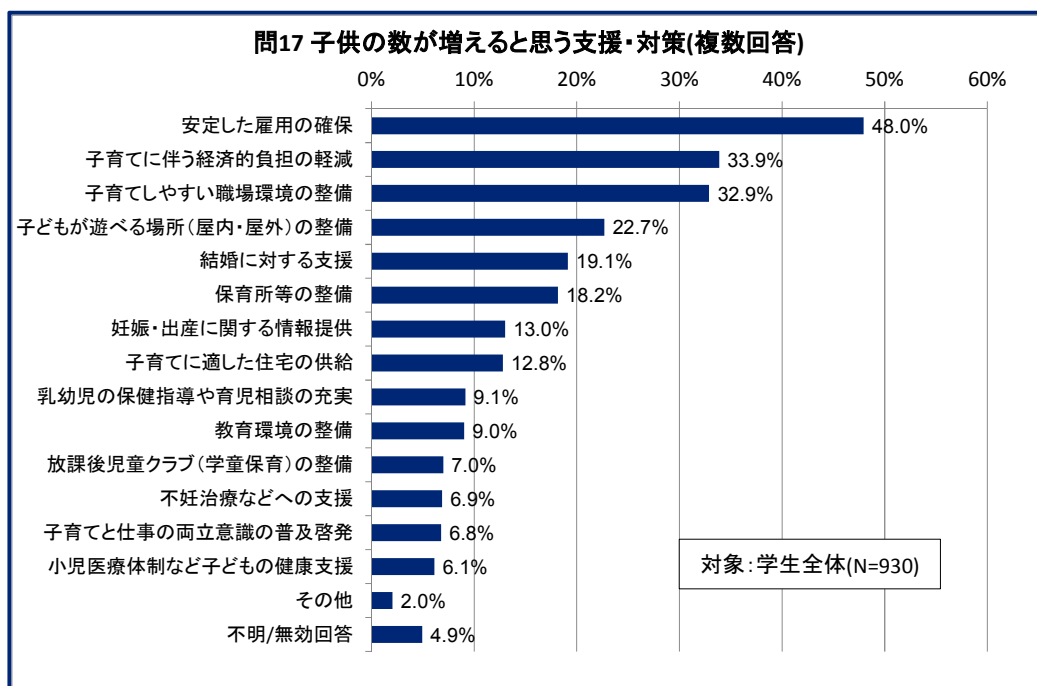
(セ) 理想的な子供数(問 16)

- 理想的な子供の数を尋ねたところ、「2人」が58.1%で過半数を占めた。
- 一方で「0人」は7.2%、「1人」は8.2%であり、2人以上の子供を持ちたいと希望している傾向が強くみられる。



(7) 子どもの数が増えると思う施策・対策(問17)

- 子どもの数が増えるための支援・対策をきいたところ、「安定した雇用の確保」(48.0%)が最も多く、それに「子育てに伴う経済的不安の軽減」(33.9%)、「子育てしやすい職場環境の整備」(32.9%)が続いている。



(8) 通っている学校の分類(問18)

- アンケートの回答者は、7.5%が「大学」、19.4%「高等専門学校」、66.3%が「高等学校」6.0%が高等専修学校である。

